

# 白井病院

(平成 26 年 2 月 21 日訪問)

平均在院日数 352.1 日 (平成 26 年 2 月 14 日時点)

## 積極的な取り組みなど

・ 週 2 回、昼食と夕食が選択メニューとなっていて、病棟にはカラーの見やすいメニューが掲示されていた。季節の行事を知らせる「栄養課だより」は、折り紙を使い綺麗だった。「きざみ食」等の食事形態は、刻み方に複数の段階を設けるなど患者に応じた対応を細かく行っているとのこと。

## 前回の訪問(平成 18 年 9 月)から改善されていたことなど

- 隔離室の窓の鉄格子は外され、光が多く入るようになった。病室の窓の鉄格子は一部残っていた。
- 前回意見箱がなかった病棟も意見箱があった。
- 3 病棟の暗さと圧迫感があった点については照明や壁紙を替えた為か、以前より明るくなっていた。
- 掲示物や病棟内を装飾するようなものが少ない病棟があった点は前回と変わりなかった。

## 病院全体(病院側の説明)

3 病棟と 6 病棟は昭和 40 年代築、5 病棟と 7 病棟は築 30 年程の建物だった。それぞれ何度か改修が行われている。東館は平成 12 年築。入院患者は認知症患者と身体合併症のある高齢患者が中心。

介護施設等に対応できない異食、徘徊等行動障害のある患者が入院することが多いため、2ヶ月など短期間で退院できる患者は少ない。薬の調整での入院は月 1 名程度、介護施設に入所手続きをして待機している患者もいる。家庭で生活できなくなって入院する場合、身体合併症がある場合は入院が長引く。

身体抑制はできるだけ少なくしている。点滴やIVHの必要な患者に対し、施行中に抑制することはある。

認知症サポート医がいる。市の施策に協力して 2ヶ月に 1 回開催される会議に出席したり、住民に対する認知症の啓発活動を行っている。医師会に協力して認知症に関する研修の講師にもなっている。

## 意見箱

人権委員会は月に 1 回開催し、他の医療機関や等で起こった事例を検討したり、院内で相談ケースを検討する。委員長は事務部長。外部委員は無し。意見箱は電話の横にあり、意見箱の紹介と設置場所に関する掲示があった。週 2 回の回収があり、サービス向上委員会で検討される。家族からの投書への回答が掲示されていた。

## PSW

病院全体に 6 名いて、医療福祉相談室に 5 名。

## 金銭管理・外出

金銭は全員が病院管理。管理料 50 円/日。日用品の代理購入は 70 円/回。

## 薬・診察

薬はデイルームか病室の患者のところまで運ばれる。診察は主に病室とのことだった。

## 入浴・洗濯・オムツ

入浴は週 2 回。病院で洗濯する場合は 5,400 円/月。病院は家族に来てもらう為に洗濯物の持帰りを勧めている。オムツは 1 日 6 回の定時交換と、随時。オムツ代は点滴時のみ 460 円/日、夜間のみ 600 円/日、常時必要 1,470 円/日等の段階がある。

## 面会

午前 10 時～午後 8 時。面会室はなく、病棟内どこでも面会ができるとのことだった。

## 病棟について

病室のベッド周りにはカーテンがあり、床頭台があった。私物は自分の物と他人の物との区別がつかない方がいるので倉庫等で管理すること。

1 病棟(内科)、6 病棟、7 病棟では個室と 2 人部屋で 525～4,200 円/日。東館では 3～4 人部屋で 525～2,625 円/日、2 人部屋は 1,890～2,625 円/日、個室は 3,150～4,200 円/日。

公衆電話はデイルームや詰所近くにあった。詰所近くの場合は横に仕切りがあった。各病棟、数名ずつ電話を使う患者がいるとのことだった。

掲示板には、新聞の切り抜きを拡大コピーしたものや「患者の権利宣言」が掲示されていた。

## 3 病棟 閉鎖 女性 精神一般 15:1 46 床

長期入院患者が中心。食後のようで 15～20 名の患者がデイルームにいた。テレビを数名が見ていた。歩ける患者は壁沿いの椅子に座っていた。職員が 1 名いて、近くの患者と話していた。しばらくすると「移動の時間」とのこと数名の職員がデイルームに来て、移動を促したり、車椅子を押していた。

トイレには暖房便座や広い個室もあり、明るく清潔だった。隔離室が 1 室あり、トイレは外からしか流せない。詰所からは離れた位置だったが集音マイクはなかった。隔離室と病棟の詰所は、簡易式のナースコールにて会話等ができる。隔離室は、自分の物と他人の物との区別がつかないことやベッドを間違えることから、他患とトラブルがある場合に使用することが多いようだった。

## 5 病棟 閉鎖 男女 特殊疾患病棟 2 60 床

食事は 11 時 50 分ごろに厨房から運ばれてくると

いう。病棟を訪問して 10 分程たつと、デイルームで食事をしていた患者は病室に戻ってベッドに横になっていたため、昼食後はデイルームや廊下には患者はいなくなった。午後のOTまでの間にオムツの交換があるためとのこと。金曜日の午後 2 時からデイルームでOTの音楽療法があり、皆で歌うとのこと。

個室が 9 室で、他の病室は 3 人部屋だった。個室にはトイレが付いていた。ベッド横にポータブルトイレが置かれているところもあった。

#### 6 病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 56 床

内科的な治療の必要な患者の病棟で、他の精神科病院から転院してきた統合失調症の患者が多い。

殆どの患者が病室で寝ていた。デイルームでテレビを見ている患者が 1~3 名、病室からトイレに向かう患者を 1 名見かけた。トイレは個室が複数と男性用小用便器 1 つがあったが、ほとんどの患者は最も廊下近くにあるアコーディオンカーテンの個室トイレを使っているようだった。この個室は歩行器や車椅子での出入りもしやすく、介助者も入れる広さ。

病室 1~2 部屋ほどの広さのデイルームにはテーブルが 2 台と小さなテレビ、その横に公衆電話があった。患者 1~3 名がテレビでドラマを見ていた。毎日売店へコーヒーを買いに行く患者が 1 名いた。それ以外の患者の外出は、家族が面会に来た場合くらいだそうで少ないようだった。

#### 患者の声

「20 年ほど入院。ここでテレビを見たり、OTに行っている。外出することはほぼない。『迎えに来てくれ』と身内に電話することもある。話せる患者は少ないが、A さん(患者)とは色々話せる」「家族が見舞いに来てくれる。このテレビを買ってくれたからずっと見ている。足が悪くてベッドから降りられないが大きな声で読んだら職員もきてくれるし、まあなんとかやっていけている。さみしいけれど、まあゆっくりできている」

#### 7 病棟 閉鎖 男女 認知症治療 1 56 床

自分で歩ける人や車椅子を自走できる患者が多い。認知症の周辺症状、行動障害のある患者が入院する病棟。病棟は回廊式になっていて 2 つのデイルームがあった。廊下にモニターカメラがあり、詰所から常時モニターできるようになっていた。

病棟訪問をしたのは昼食が終わったあとで、デイルームのテーブルの所に座っている患者、廊下を歩いている患者、家族が面会に来ていて車椅子を押しもらっている患者などが見られた。

時々大きな音のチャイムが病棟全体に響くので、理由を聞くと、患者が詰所横の観察部屋を出入りしたときに鳴るとのことだった。

生活訓練室の壁やデイルームの壁の掲示板には、外出行事の時の写真が貼られていた。外出行事は

春と秋、初詣などを年に数回実施し、10~20 人が参加するとのこと。その他の外出機会としては、職員同伴で院内売店に買物に行く患者がいるとのこと。

生活機能回復訓練室では、毎日午後にはOTとPT(理学療法士)がリハビリプログラムを行っている。PTは病院全体で 7 名おり、病棟担当制になっている。

#### 東館

病室の前には部屋ごとに花のイラスト版があり、扉は引き戸だった。各病室には洗面台があり、病室と病室の間ごとに車椅子でも使用できる広さのトイレがあった。デイルームは広々としていて、集団OTがある時はベッドごとデイルームに移動して参加できる。病室の面積も廊下の幅も広い。光が多く入り全体に明るい雰囲気、廊下には絵画が飾られていた。

#### 東 1 病棟 閉鎖 男女 認知症治療 1 52 床

デイルームでは患者が 30 名ほど座っていたが、お互いに雑談をしている人は少なく、静かだった。また病室からベッドごと移動してきている患者が 9 名いた。入院生活の中で何らかの刺激を入れて欲しいという家族が、東館への入院を希望することもある。

#### 東 2 病棟 閉鎖 男女 精神一般 15:1 52 床

訪問時はオムツ交換の時間帯とすることで、職員数名がワゴンを押して部屋をまわっていた。廊下やデイルームには患者はいなかった。

#### 患者の声

「ベッドで横になって外の景色を眺めている。病室から木々が見える。職員は呼んだら来てくれる。先ほどオムツ交換にまわってきた」

#### 検討していただきたい事項

##### 病棟での時間の流れについて

① 各病棟で出会ったほとんどの患者はパジャマを着ていた。(病院:常時臥床状態の方でない限り、一日の生活にメリハリをつけるため、日中は、パジャマ以外の服装にて過ごしていただくようします。)

② 食事にかかる時間は半時間弱で、食事がひと段落したら一斉に病室に移動してオムツ交換が始まり、オムツ交換は「OTが始まるまでに」とのことで行われていて、全体的に職員の時間の流れが優先されているように感じた。5 病棟では立ったまま食事介助をしている職員がいた。(病院:患者にとって食事は、楽しみのひとつであり、大切なものであることを考え、患者と同じ目線の位置で食事介助を行うことにより、患者の嚥下の状態、患者の表情を観察でき、心通じた介助を行うことにより、患者との信頼関係をより深いものにしていく。食事の種類や味を十分に楽しく味わえるような食事介助を行うよう徹底する。)

③ 病院全体として認知症で長期入院の患者が多かった。認知症の治療と同時に、入院患者にとっては病棟が生活の場ともなっているため、生活の質を高めるためのさらなる工夫について検討をお願いしたい。(病院:院内行事として、お花見では花見弁当を桜の木の下で食べたり(略)様々の催し物がある。年始は近くの神社へ初詣、春の外出時にはショッピング、喫茶等々の行事を計画しました。グループの活動として、光療法、傾聴、タッチング、音読、研究活動としてドールセラピー、音楽(催眠への導入)の活動を継続的に実践してきた。外出、外泊の機会を多く増やすよう患者の意向を十分に説明、又、ADLの維持できるようにリハビリに努めていきます。)

患者ひとりひとりの声をきくために

病棟でのOTは集団プログラムが中心のようであった。(病院:認知症治療病棟が2病棟あり、それぞれの基本的な生活機能回復訓練における目的や認知症を持つ患者へのケア理念は統一しています。パーソンセンタードケアの理念を基盤とし、一人ひとりの生活史の情報を大切にしながら、「その人らしく」入院生活を過ごしていけるように接しています。プログラムも個人を大切にしていますが、何から何まで個別化ということではなく、集団活動の効果も重要視し、それぞれの曜日ごとに午前、午後に分けて実施しています。季節ごとの外出活動も活発に取り組み、患者の希望を聴取し、初詣、買い物、喫茶店、レストラン等へ外出しています。

6名のPSWが個別担当制という形で個々に関わりを持って対応しています。退院に向けて患者と個々に面談することはもちろん、家族とも連絡を取り合い面談を重ねています。ADLの状態でも相談室を訪れることができない患者についても、病棟職員を通じてPSWに連絡が入り、病室まで訪問し、面談を行っています。患者の要望に迅速に応じ、対応しています。)

生活の質を基本に据えたエンド・オブ・ライフ・ケアの提供

看取りを行うケースも少なくないそうだが、ターミナルケアでの工夫、努力していることについての質問には、看護は「特にない」、相談室は「事前に家族の意向をしっかりと聞きしておく」との回答であった。今後、入院患者、家族や周囲の人々、病院職員のいずれにとっても満足いく看取りとそのためのケアの追求が必要なのではないだろうか。(病院:床頭台、壁には、家族の写真、思い出の品等を飾り、話題、思い出作りの提供、そして少しでも患者との時間作って欲しいと思いますので、家族の方への座りのいい椅子を提供し、限られた時間を家族と共に落ち着いたベッドサイドであるような場所を作り、満足していただきたい。医療の選択は、最後まで本人、家族の意向を大事にして、専門職としての医師等の医療スタッフと共に話し合っていく場を作っていきます。)

病棟の雰囲気について

東館以外の病棟では掲示物や病棟内を装飾するようなものが少なかった。(病院:病棟内に絵画・風景写真等を飾り、壁紙等も工夫し、患者がゆっくり、くつろげる空間作りを考えていきます。)

病室の鉄格子について

一部の病室に鉄格子が残っていた。(病院:すべて撤去します。)

男性用トイレの尿臭について

7病棟の男性用トイレ付近では尿臭がした。尿をこぼす患者がいるから便器の前にマットが敷いているとのことであるが、尿臭の発生源となっているようだった。(病院:マットの交換は、1日1回でしたが、午前・午後の1日2回交換とします。及び頻回に巡回し、尿等で汚染している場合や臭いが気になる時は、その都度、清潔なマットと交換と消臭スプレーを噴霧にて、尿臭が残らないようにします。)

入院時から、退院後に必要なサービスを受けるための

諸手続き等を円滑に行えるような体制整備への取り組み

(病院:入院時より担当のPSWが入院手続きを行い、診察、病状説明に立ち会い、入院前の様子を情報収集している。入院時の病状説明にて、主治医より今後状態が落ち着いた段階での家族の意向をお聞き、それに添うようPSWが中心として他職種と連携しながら退院支援を早期に行っていく。行政、他の医療機関、近隣の居宅介護保険事業者及び居宅介護支援事業者の介護支援専門員や介護保険施設との連携を強め、できる限り短期間の入院で退院できるよう取り組んでいきます。)

精神保健福祉資料より(平成25.6.30時点)

294名の入院者のうち認知症など症状性を含む器質性精神障害が250名(85%)、統合失調症群が26名(9%)。入院形態は任意入院22名(7%)、医療保護入院272名(93%)。在院期間は1年未満が101名(34%)、1年以上5年未満の患者が134名(46%)、5年以上10年未満の患者が33名(11%)、10年以上20年未満が18名(6%)、20年以上8名(3%)。